

平成29年12月6日（水）

記録：我妻，武田

・高学年部の研究について（我妻）

4回の研究授業を行ってきた。入口に1枚物の掲示物を作成している。事前読みを取り組んで来た。自分のよいところ，かえてみたいところを書いて授業にのぞんだ。聴き方・話し方に成長が見られるようになった。児童がより自分のこととして考えられるように，教師による発問を吟味したりした。考えの変化を自覚させる手立てとして，ワークシートの他に心情円盤を使って客観的にみれるようにした。家庭との連携を図り手紙を書いてもらった。資料をもとに自分の考えを深められるような道徳の授業を考えられるようにしたいと考えている。

・自評（T1）

おわびがあります。37ページの指導にあたっての最後にからが抜けてしまい，申し訳ない。感想を数名に発表させ，学びを共有する，と挿入してほしい。

本時，ポイントとして事前読みを行った。スムーズに話し合いに入っていくために，言葉の意味を押さえるということがあった。昨日と本日の朝の活動を使って，5分ずつ読んだ。自分の考えをまとめ，発表するための手がかりとした。児童同士の意見の交流，心情円盤についてはお気づきの点などを教えていただきたい。友達からの客観的なよさのメッセージ，保護者からの手紙をじっくりと読んでいた。いつもおこられているけど，お母さんがこう思っていたと涙ぐんで帰って行った。宮城県の学力向上の5つの提言をもとに立てた。

（小池）

集団に入るのに難しい子どものために，最初は円に入るが後ろを向いていたり，普通に座っていることができた。書くことはできなかった。無言の時間も前は簡単にパスしていたところを長く考えることができていた。今後も空間をさらによくしたいと思いました。

<Aグループ協議>

T1 ご参会いただいた先生方に，印象的な児童の姿など感想を聞かせていただきたい。

参加者A 児童いきいきと，つつこむ意見も見られた。探究的であり，主体的であると思った。

参加者B これからの道徳の形かなと思った。

質問 自分のいのちを百点満点に生きる先生の捉えは。

T1 私の中でも大変揺れました。いのちの重さって何だろうと学年部でも迷った。

5年生の実態を考えるとそこまでは難しいと感じたので「今できる事を一杯すること」や「失敗してもくじけない」という捉えで進めてきた。

児童の実態としてどうせ自分なんてと思う女子をなんとかしたい。また長所を伸ばし，短所を改めるという願いもあった。

参加者C 自分のいのちを百点満点に，「百点満点」をメインに扱っていたが，それだと，努力で自己の伸長にはいかないのではないかと感じた。ただ，T2が

すごく良いタイミングで、とても効果的だったように感じた。

参加者D 道徳の授業でいつも思っていることがある。言葉が表面的に流れる授業があるが、道徳は本音で語れなければならないと思っている。p 4 c を取り入れない時の道徳の授業と比べて、子どもの言葉の変化があれば、教えていただきたい。

T 1 私がすごく感じる事は、子どもが構えない、表面をとりつくりはしない児童の様子を感じる。

参加者E こういうスタイルでの授業を初めて見ましたが、こういう授業のスタイルで子ども達を育てられるという可能性を感じた。またT 2 の効果がよかった。ただ、資料「トマトとメロン」の使い方について、話し合いの時には資料がほとんど出てこなかった、後半でも時々出すなど活用もできると感じた。

参加者F 先生がしっかり切り返す。先生だけが切り返すのではなく、子ども達から自分たちで深めていこうとする姿が見られた。

参加者G こどもがとても成長したなと思います。基盤は、安心感だと思います。考え続けられる子どもを育てたい。今日がきっかけになればいいんだ。価値の伝達ではない。4月以降の方向性を示した授業だった

参加者H T 2 の関わり方ということで、打合せはしてたのか。

T 1 考えが流れがちになるので、そうなった場合は、真逆に切り返して、話し合いを深めていこうと打ち合わせていた。

参加者I 子ども達がよく話しているので、積み重ねが大切であると感じた。

参加者J 親からのメッセージ自体も教材になり得るのではと感じた。

参加者K 積み重ねを大事にされていると感じた。また全職員で子ども達とともに研究をされている成果がとても表れていた。途中、個性の伸長から離れていたの、手紙や友達からのメッセージを読んだ後に、もう一度自分の事を振り返る時間を設定されているとよかった。たくさんの仕掛けを活かせる場面があったのではないかと感じた。

参加者L 他の人と関わらせて自分の意見を言えていた。ぜひ女の子も積極的に話せる手立てがあれば良かった。

参加者M 本校も道徳の研究2年目で、一年目は、「自分の思いを書く」、二年目は「深め合う」ということで進めてきているが、ちょっと行き詰まっているところがあり今回参加した。私が疑問に思っていたことなど、話し合いの中で、先生方から教えていただいたので大変勉強になった。

#### <B グループ協議>

参加者A：どうしても探究の対話（p 4 c）の手法だけでやっていると生徒同士で聞き合うことができず、悩んでいた。「それってどういうこと」「具体的に教えて」どのような練習をすればいいのかなと思った。

参加者B：市内で探究の対話（p 4 c）の活用をすごくしていて小学校からして中学校での連携をしていく。小学校でこのような指導をして上がっていく。大切にしたい。

参加者C：手立てが細かくて、子どもが喜んで考えたいような手立てがたくさんある。

問い返しがあって小学校でもできるなら、中学校でもさせてみたい。心情円盤というのは、全学年で使われているか？

T2：試しているところです。

・自分でもやっっているが、問い返しも少ない現状。今後の課題だと思っている。道徳でやることについて、めざす価値があるので難しい。先生主導でやって、最後まとめておしつけてしまってしまうと、印象が薄くなってしまう。自分たちで話合うことで、自分に投影することで覚えていく。

・探究の対話を結構見ると違う。今までの授業は、指導案、子どもの反応を見ている。対話の授業の時は、自分も一緒に子どもと考えてしまうとみていた。メインの「自分の100点満点で生きる」というのは、そもそも100満点になる必要があるのか。そうすればもっと深まったかな。

参加者D：100点じゃなければいけないのか、価値理解がとってできていた。人間理解ができていたかと思った。小池先生の存在が大きかった。掘り下げ、切り返しがよかった。

とてもいいタイミングで、揺さぶりをかけていた。一つ聞きたいのは、問いは誰がたてたのか。先生。多面的というのは一つのものごとをたくさんのところから見る。最後は不撓不屈、思いやりという価値で話していた。振り返りのところは、誰のどんなところで変わったのかが書けるとさらによい。

・はじめて探究の対話（p4c）形式の授業をみた。すごく衝撃があった。T2の存在が子供たちからださせたいものが出せていた。普段T2という形で引き出せていたのか。心のあしあとカードの変容が見られれば。

T2：価値をゴールにしないような切り返し。こうきたらこうくるという計画を立てながら、先生の意見が大きくなってしまっているので、とても迷っていた。この子だったらと期待していた部分があった。我慢しながら、行く途中のどこまでいけるかを考えていた。それたりしていたかもしれないが、よく考えていた。カードは普段から書いていた。これからどう変わっていくのか分かる形にしていきたい。

・T2の役割で、T3まで入って行ったこともある。T2は生徒と同等。生徒より長く生きている人としている。いつの間にか先生にもどっていた。今回の先生たちのように事前に打ち合せをしなければいけないと思った。

・そうするとTTの対話がハードルが高くなってしまふ。

・問いが最初から決まっているので、幅がせまいが、テーマを決めるところから入ると広がってしまう。

参加者E：探究の対話（p4c）なのかサークル対話なのかをおいておいて、先生の1周したら次の発問になっていた。堂々巡りになったとしてももう1周させたかった。先生のテンポがはやすぎた。先生のテンポどうだったか。

・「トマトとメロン」を選ぶのがそもそも難しい。トマトらしく、トマトがメロンに対して卑屈になっていた。100点満点というのが子供たちが自分の人生考えたことがなかった。そのあたりはどうか。

・T1もいっていた。だめなところかえたいところをいいところを伸ばしながら、といきたかった。ゴールとしての価値に向かったの姿勢が見えた。

<指導講評> 宮城県大河原教育事務所 主幹指導主事 阿部欽一先生

確認ですが、道徳を取り巻く現在の教育動向についてお話ししたいと思います。

来年から学習指導要領が変わり、「特別の教科 道徳」がスタートします。改訂点について簡単に確認したいと思います。

目標についてお話しします。「学校教育全体を通じての道徳教育については、道徳性を養うこと」「道徳の時間の目標については、道徳的実践力の育成をするもの」とされておりましたが、新しい物については、「より良く生きるための基盤となる道徳性を養う」という風な書き方になっている。また、これまで、道徳的心情、判断、実践意欲と態度とされるされていたものが文言の順番が動いたといことがありました。研究紀要3ページに、本校のこの点の捉え方が記載されておりました。図があって分かりやすく書いてあります。

「気付き」「葛藤」そして「道徳的実践意欲と態度」という風に押さえられております。

また指導方法については、中教審答申では、質の高い多様な指導方法として、例示されているものが3つほどございました。（これを必ず使えという物ではないが）「読み物教材の登場人物への自我関与が中心」自分事として入っていくことが大事になってくると書いてありました。それから二つ目として「問題解決的な学習」。みなさん道徳の授業で「オープンエンド」とか「モラルジレンマ」とか授業に活用されるかと思いますが。結末をどうしようかなというところを考えていかなきゃいけないよという話が出てました。後は道徳的行為に関する体験的な学習といったことが例示としておかれていました。

本時の授業を含めて、価値項目とか学習内容を自分事にする。あるいは、言い換えると自己を見つめるために工夫されている点が何点かございました。

みなさんもお気付きかと思いますが、一つ目は「資料の事前読み」と言うことです。一単位時間内で、児童生徒が自分事に落とし込んで深く考えさせるということが難しく、結局、表面上の中心価値に少し触れただけで、なんとなく授業が終わってしまう経験は、誰しもがしているのではないのでしょうか。大鷹沢小学校の道徳の授業は、この点を改善しようとする試みが見られました。資料をいったん読み、その事象、その事柄についてある程度自分事として落とし込んで授業に臨む。そして前半の部分の少し質を高くして、後半、考えたり議論したりする時間を確保できるということを提案していただきました。

本時では、自分の良いところを探してくるという課題もあって子ども達は、半分良いところもあるが、嫌なところを見られたくないという複雑な気持ちで授業に臨んでいたのかなという表情を見取ることができました。

二つ目として、一時間の道徳の中で、「価値理解」、「人間理解」、「他者理解」が学習過程に階段状に入れ込まれている点が特徴ではないかなと思いました。今日の授業だと「人間理解」については、でもやっぱり嫌だなと思うところをプラスの面に持っていくために、「良いところ探しのメッセージ」は、子ども達すごく表情が良くなりました。また「保護者からの手紙」これもすごいなと思いました。「円座」の形態を作り、自己開示ができる雰囲気を作った上で、他の人の意見を積極的に聞くことのできる場を作り「他者理解」が進むような手立ても講じておりました。こういった話合いができるっていうのは学級作りが根底にあるのだろうと思いました。

今後、参考にしてもらいたい点としまして、何点かございます。

一つ目は、毎時間の累積を評価につなげていきたいところで、例えば、一例であるが、高学年なら教師と児童が一緒に振り返る。ポートフォリオ評価も活用できるように感じました。また、重点価値で評価するのか、いろいろな価値で評価するのか。

二つ目として、地域がらみの取り組みができないか、例えば第三者の人に入ってももらう、そうすると他者理解も進んでいくのかと思います。

大鷹沢小学校の先生方におかれましては、研究して校として、我々に様々な示唆を与えていただいたことに感謝いたします。また、これからも研究実践にご尽力いただき、様々なことにお教えいただくことをお願いして、私の話を終わらせていただきます。